

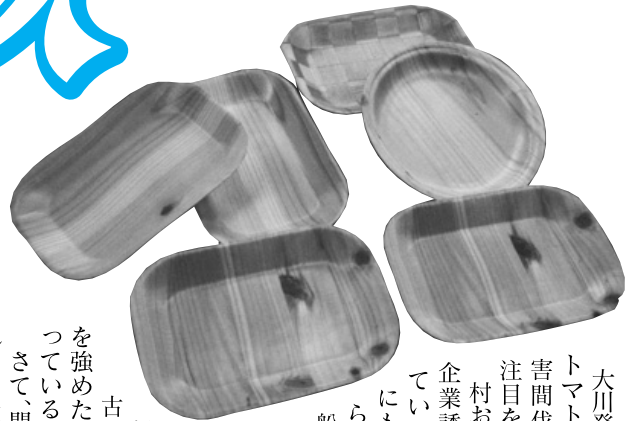
夢追い人

間伐材を使った無公害トレイ開発



大川を家具と
トレイの街に

(有)トマト&匠 会長 江頭 修作さん



大川発のベンチャー企業、(有)トマト&匠が開発した、無公害間伐材トレイが全国的に注目を集めている。
村おこしを目標む地域から、企業誘致の依頼が数件入っているそうだ。この取材中にもある地域の商工会から誘致の電話が入った。
船井総研からも情報と技術の提供の申し出を得ている。7月2日、NHKが番組で取り上げたのがきっかけになった。すでに船井総研と提携している名古屋の研究所で、殺菌力を強めた新しい製品の開発に入っている。
さて、間伐とは何だろうか。それは、森林で主要な木の生育を助けるために、不要な木をきりとつて適度な間隔をつくることをいう。そしてその際生じるのが間伐材。
森林に対する優しさに関連して、(有)トマト&匠の会長江頭

修作さんはこう語る。「近年、経済効果を見いだせないため、間伐をあまり行わないようになってきています。そのため森林がかなり荒れていきます。平成3年の17、19号台風で山に甚大な被害が生じたのも、それが原因になっています。しかし、間伐材を使った私たちの製品作りは、森林育成に必要な間伐に経済効果を持たせるものです。森林乱伐とは無縁のものです。」さらに、環境保全にも役立つことを強調して、「発泡スチロールを使ったトレイと違い、有害なダイオキシンを出不さない無公害商品です。また使用後の処理の際も、焼却場の釜を傷めず、中に埋めれば土に帰っていきます。」
5年前に「大川間伐材有効利用技術研究会」を発足させた。そして試行錯誤を繰り返しつつも、紙状に薄くし、ある程度の強度を持たせる、無公害一貫製品化技術に成功した。大川で培った技術が生きたそうだ。
江頭さんは「環境保全とともに経済発展の共生」を理念としている。トレイ業界はなんと7兆円市場と言われている。いろいろな地域から誘致があるのも当然であろう。大川木材事業(協)でも、早速プロジェクトチームを組み、大川に工場を設置する方向で動き出している。
江頭さんには、各地域からの申し出あるものの、この事業を可能な限り、大川で発展させて、基幹産業に育て上げていきたいという夢がある。
そして、「大川の基幹産業へと

環境保全とともに経済発展の共生



進展させるため、間伐材有効利用技術研究会にいろいろな業種・団体の方に参加していただきたくと願っています。どなたでも歓迎します。」という。連絡先は、TEL86154888。
家具とトレイの街に。その夢が奔走する江頭さんの原動力となっているようだ。